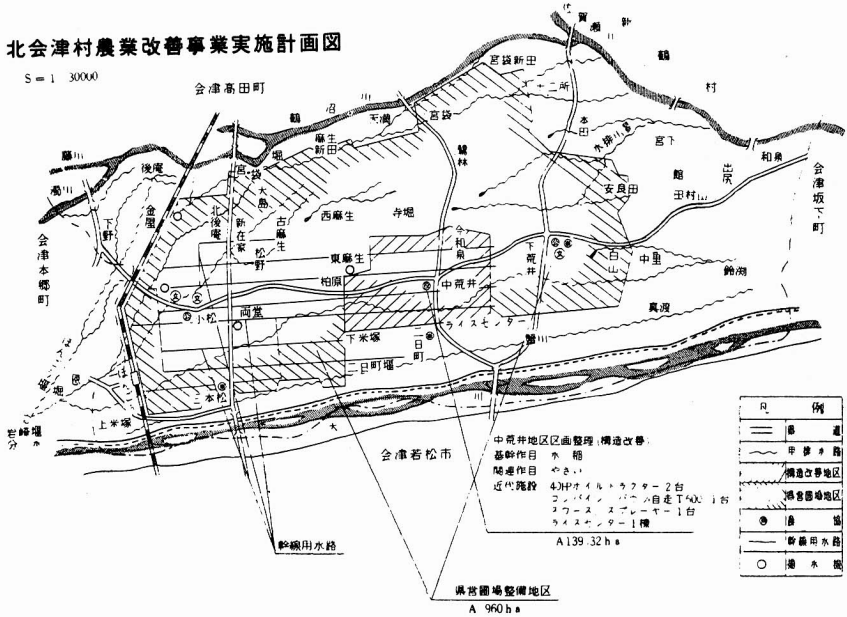


# 北会津村農業改善事業実施計画図

S = 1/30000



クタールあって、その畑地率は二五・二パーセントと比較的高い。これを山林・原野などの計一一七・三ヘクタールを耕地として、水田面積を一、四一九・三ヘクタールの五〇・五パーセント、畑地を四七三ヘクタールの二三パーセントくらいに押えたいというのが目標である。

この実面積割合は算出方法、事業の進み具合によっても、いくらかの変動を つづけるであろうが、既に相当の雑木林が伐り開かれ、面目を一新している現況である。これに地下揚水施設・動力耕耘機の購入など、特にこの協同機械化による経営面の改善も逐次見えはじめている。

米麦生産流通合理化のモデルプラントが北会津村の真只中にそびえ立ち、農業構造改善による、次の農業経営の画期的発展ののろしをあげているようにさえみえる。その事業の概要をなお一覽表にしてみると、次のようである。